



Y.Machida

THE KIKUKA SHO (JAPANESE ST. LEGER)

第85回 菊花賞 (GI)

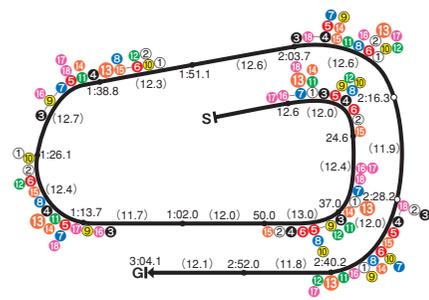
1着 賞200,000,000円 2着 80,000,000円 3着 50,000,000円 4着 30,000,000円 5着 20,000,000円
 付加賞 31,220,000円 8,920,000円 4,460,000円



牡・牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 馬齢重量

2024.10.20 京都 晴・良 芝3000m (国産) (指定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	③	アーバンシビック	牡3	57	C.ルメール	3:04.1	8-8-5-3	35.6	510(±0)	3.7②	武井 亮(美浦)	118
2	⑩	ヘデントール	牡3	57	戸崎圭太	2½	17-16-8-5	35.8	472(-8)	7.1④	木村哲也(美浦)	115
3	⑦	アドマイヤテラ	牡3	57	武 豊	ハナ	15-12-2-1	36.3	482(+4)	23.6⑦	友道康夫(栗東)	115
4	⑪	ショウナンラフンタ	牡3	57	鮫島克駿	クビ	10-10-10-4	35.8	536(+6)	23.6⑥	高野友和(栗東)	114
5	⑦	ピザンチンドリーム	牡3	57	A.シユタケ	クビ	12-15-14-10	35.4	456(-2)	41.5⑨	坂口智康(栗東)	114
6	④	ダノンデサイル	牡3	57	横山典弘	1½	8-9-14-15	35.5	522(+18)	2.9①	安田翔伍(栗東)	113
7	⑫	シュバルツクーゲル	牡3	57	松山弘平	7	4-4-1-2	37.8	486(-2)	99.1⑩	鹿戸雄一(美浦)	106
8	⑤	ハヤテノフクノスケ	牡3	57	岩田望来	1½	12-12-14-14	37.1	516(±0)	120.2⑮	中村直也(栗東)	104
9	⑨	エコロヴァルツ	牡3	57	岩田康誠	ハナ	6-6-11-13	37.2	488(+4)	68.3⑳	牧浦充徳(栗東)	104
10	⑩	アレグロプリランテ	牡3	57	横山和生	5	12-12-17-16	37.1	466(±0)	291.1⑱	上原佑紀(美浦)	99
11	⑧	ウエストナウ	牡3	57	西村亨也	¾	7-6-8-8	38.2	488(-4)	55.2⑪	佐々木晶三(栗東)	98
12	⑥	ミスタージーティー	牡3	57	坂井瑠星	½	4-4-5-10	38.5	474(+2)	79.5⑮	矢作芳人(栗東)	97
13	⑭	メリオーレム	牡3	57	藤岡佑介	4	10-10-11-8	38.9	488(+2)	51.5⑯	友道康夫(栗東)	93
14	⑩	コスモキュランダ	牡3	57	M.デム	2½	16-16-11-6	39.4	512(+8)	6.0③	加藤士蓮八(美浦)	91
15	①	ピースワンデューク	牡3	57	柴田善臣	4	1-1-2-6	40.4	452(-2)	26.2⑳	大竹正博(美浦)	87
16	⑩	メイショウタバル	牡3	57	浜中 俊	1¼	2-2-2-10	40.7	502(+6)	9.6⑤	石橋 守(栗東)	86
17	③	アスクカムオンモア	牡3	57	北村友一	3	18-18-18-16	39.8	484(+2)	184.1⑯	藤原英昭(栗東)	83
18	②	ノーブルスカイ	牡3	57	池添謙一	大差	3-2-5-16	50.5	464(-2)	253.6⑳	高柳大輔(栗東)	24



アラカルト

- ・C.ルメール騎手はドウレツツァで制した23年に続く菊花賞4勝目。JRA重賞は本年10勝目、通算157勝目
- ・武井亮調教師は菊花賞初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算3勝目
- ・スワーヴリチャード産駒はJRA重賞通算6勝目
- ・メリオーレムの川田将雅騎手は前日の東京競馬第5日第3競走での入線後の落馬負傷のため藤岡佑介騎手に変更

単勝③370円(2½%) 複勝⑩160円(1½%) ⑩240円(4½%) ⑦470円(7½%) 枠連⑦-⑧760円(4½%)
 馬連③-⑩1,180円(4½%) ワイド③-⑩490円(4½%) ⑩-⑦1,070円(10½%) ⑩-⑦1,640円(18½%)
 馬単③-⑩2,000円(6½%) 3連複⑩-⑩⑦5,200円(15½%) 3連単⑩-⑩⑦19,390円(49½%)
 5重勝①①⑦⑩⑩745,990円(631票) 対象競走: 東京10R/京都10R/新潟11R/東京11R/京都11R

アーバンシック Urban Chic

牡 栗毛 2021.3.16生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・術シルクレーシング 美浦・武井亮厩舎
馬名意味・洗練された。母名より連想

ウインドインハーヘアIRE系 F2+

スワーヴリチャード 栗毛 2014	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA アイリッシュダンス
	ピラミマUSA 黒鹿毛 2005	Unbridled's Song Career Collection
エッジスタイル 栗毛 2013	ハービンジャーGB 鹿毛 2006	Dansili Penang Pearl
	ランズエッジ 鹿毛 2006	ダンスインザダーク ウインドインハーヘアIRE

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4 Lyphard S5×M5

INTERVIEW

石井宇宙 厩舎長（ノーズンファーム早来）

とても感慨深い勝利でした

育成時は気性の幼さが見受けられましたが、パドックを周回する姿は実に堂々としていました。これもノーザンファーム天栄や厩舎でしっかりと仕上げてくれたからだだと思います。レースはスマホで見ましたが、C.ルメール騎手の好騎乗に尽きます。最後の直線ではさすがに声も出ました。厩舎長になってから初めて手掛けたG I馬ですので、とても感慨深い勝利でした。



S.Okada

京成杯2着、皐月賞でも小差の4着に追い込んだ本馬。強烈な末脚を誇る半面、春の時点では、追い込み一手の弱みも抱えていたが、ルメール騎手と初コンビを組んだセントライト記念では器用な立ち回りを勝利に繋げ、戦法の幅が広がった。この日も鞍上と呼吸を合わせて特異な流れに乗り、未知の距離を克服。前走で示した「ひと夏の成長」を改めてアピールし、最後の二冠の頂へ駆け上がった。

父スワーヴリチャード

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首19戦6勝(ジャパンC^{G1}、大坂杯^{G1}、金鯱賞^{GII}、アルゼンチン共和国杯^{GII}、共同通信杯^{GIII}、日本ダービー^{G1} 2着、東京スポーツ杯2歳S^{GIII} 2着、ジャパンC^{G1} 3着、ドバイシーマクラシック・首^{G1} 3着、宝塚記念^{G1} 3着、安田記念^{G1} 3着)、20年から供用〔代表産駒〕**アーバンシック**(本馬)、**レガレイラ**(ホープフルS^{G1})、**コラソビート**(京王杯2歳S^{GIII}、フィリーズレビュー^{GII} 2着、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1} 3着)、**スウィーフイット**(チューリップ賞^{GII})、**アドマイヤベル**(フローラS^{GIII})、**パワーホール**(札幌2歳S^{GIII} 2着)、**ナムラフッカー**(デリー杯2歳S^{GIII} 3着)、**ヴェロキラブトル**(野路菊S^{OP})

母エッジスタイル

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央26戦3勝(都井岬特別)、22年輸出(豪カームリー(20 牡父ドゥラメンテ)中央3戦0勝、地方3戦0勝

アーバンシック 本馬(21 牡父スワーヴリチャード)中央7戦4勝(菊花賞^{G1}、セントライト記念^{GII}、百日草特別、京成杯^{GIII} 2着、皐月賞^{G1} 4着)獲得総賞金350,448,000円

(22 流産)

(23 牡父Castelvecchio)

祖母ランズエッジ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央0勝

ロカ(12 牝父ハービンジャーGB)中央1勝(忘れな草賞^{OP} 2着、クイーンC^{GIII} 3着)、**レガレイラ** ⑩(ホープフルS^{G1})、**ドゥラドーレス** ⑩(江の島S、藻岩山特別、セントポーリア賞、毎日杯^{GIII} 3着、菊花賞^{G1} 4着)の母

エッジスタイル(13 前出)

ブルークランズ(14 牝父ルーラーシップ)中央3勝(北大路特別)、**ステレン**

ボッシュ ⑩(桜花賞^{G1}、赤松賞、オークス^{G1} 2着、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1} 2着、秋華賞^{G1} 3着)の母

ヴァルコス(17 牡父ノヴェリストIRE)中央2勝(ゆきやなぎ賞、青葉賞^{GII} 2着)

ギャラクシーエッジ(18 牡父エビファネア)中央1勝(聖籠特別)

曾祖母ウインドインハーヘアIRE

愛、英、独3勝(アラルポカル・独^{G1}、プリティポリーS・英I、フィリーズトライアルS・英I、英オークス^{G1} 2着、ヨークシャーオークス・英^{G1} 3着)、99年輸入、12年用途変更、**ディーブインバウト**(三冠、ジャパンC^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、宝塚記念^{G1}、日本リーディングサイヤー)、**ブラックタイド**(スプリングS^{GII}、種牡馬)の母

戦法の幅を広げ大輪の菊を咲かせる

13秒台のラップが刻まれたのは一度だけで、1000mほどのラップは62秒01、61秒71、60秒4。今年の菊花賞は極端に緩む場面がなく、前半よりも中盤、中盤よりも後半が速いという特異な流れで進行した。そんな一戦を制したのはアーバンシック。ダービー馬ダノンデサイルの対抗候補と目されていたセントライト記念の覇者が、例年以上に難易度が高かった3000mの長丁場を上手に乗り切り、クラシックウイナーの称号を手にした。

ダービーでも先導役を務めたエコロヴァルツがまずは先手を奪取。しかし1周目のスタンド前ではノーブルスカイ、1コーナーでは神戸新聞杯の覇者メイシヨウタバル、さらに2コーナー手前ではピースワンデュークと、目まぐるしく先頭が入れ替わる。ダノンデサイルはスタンド前で好位のインに収まったものの、次々に進出してきた他馬に包まれ、ジリジリと後退。3番人氣に支持されたセントライト記念の2着馬コスモキュランタも、スタートで出遅れ、序盤に折り合いを欠くなど、リズムよく走れなかった。

対してアーバンシックのC・ルメール騎手は、前半はジックリと構えて中団を進み、向正面から徐々に進出を開始。3コーナーの坂の上りでは先行勢の背後に忍び寄り、後方から先に仕掛けてきたアドマイヤテラを追って2周目の坂を下ると、直線ではその外へ持ち出してスパート。力強く伸びたアーバンシックが残り200m地点を過ぎて先頭へ抜け出し、背後から追い込んだヘントール以下の2着争いを尻目に悠々とゴールを駆け抜けた。